

「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実 ——「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 具体化を目指した授業デザインの構想を通して——

山城昌義^{*1} 下地 農^{*2} 大城久表^{*3} 小波津 力ヨ子^{*1}
 玉城利奈^{*1} 大城 晴美^{*1} 宮平太樹^{*1} 知念 豪一郎^{*1}
 前城 静二^{*1} 島袋 陽^{*1} 来間 加代子^{*1} 川本 憲哉^{*1}

キーワード 令和の日本型学校教育 持続可能な社会の創り手 ESD SDGs
 主体的・対話的で深い学び 個別最適な学び 協働的な学び
 ICTの活用 資質・能力の育成 自立した学習者の育成 見方・考え方
 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ 授業改善・学習改善
 問いが生まれる授業 支持的風土の醸成

I はじめに（テーマ設定の理由）

社会の在り方が劇的に変化する「VUCA」の時代が到来し、近年では、人工知能（AI）、ビッグデータ等の先端技術がより高度化して、その技術はあらゆる産業や社会生活に取り入れられている。また、社会の在り方そのものがこれまでの常識や価値観を劇的に変える状況が生じつつあり、社会の変化が加速度を増し、より複雑で先行き不透明な「予測困難な時代」となっていることが指摘されている。このような急激に変化する時代の中、中央教育審議会答申（令和3年1月26日）『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、急激に変化する時代に対応できるように「個別最適な学び」と「協働的な学び」、「ICTの活用」の方向性が強く打ち出されている。

令和3年中教審答申では、学校教育において子供たちに育むべき資質・能力として、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」にすることが必要と示され、その資質・能力を育成することが求められている。また、「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿〔教職員の姿〕」として、「学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通じて学び続け、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たしている。」と示されている。そこで、本総合教育センターにおいては、それらの趣旨を踏まえて、今年度から調査研究統一テーマを「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」と掲げ、プロジェクト研究テーマについては『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実」と新たに設定した。

沖縄県教育委員会が推進する「沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトⅡ」（以下、『PPⅡ』）の中で『総括期』における『重点事項』及び『具体的取組事項』として、「重点1 自立した学習者の育成」、「重点2 中学校期の学力課題の改善」が記されている。その『PPⅡ』の「学力向上推進マネジメント構想図」には、総括目標として「幼児児童生徒一人一人に『生きる力』の基盤となる『新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む』ことが示され、長期目標として「豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成」が記されている。また、テーマにある『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実」を図るためには、「子供が主体的に学びたい」と思えるための「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりが必須となると考える。

以上のことを踏まえ、本研究では、県内の学校（幼小中高特支校）にとって汎用性、有用性のある実践的な研究となることを目指して上記テーマで研究に取り組む。なお、今年度は、「調査研究統一テーマ」「プロジェクト研究テーマ」とともに新たに設定した初年度（1年次）にあたるため、この1年間は理論研究の構築に努める。そして次年度（2年次）は、研究協力校・研究協力員を募り、連携して実践研究を進めていく。その際、各校種、各教科等の特質に応じた資質・能力の育成を図り、「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実を図っていけるようにする。そして、本研究終了後は成果物としてまとめ、学校現場へ研究内容を周知し、学校教育の充実や学校支援に資することを目指していく。

なお、本稿では、下記のように各種資料等を表記する。

^{*1} 沖縄県立総合教育センター研究主事

^{*2} 沖縄県立総合教育センター主任研究主事

^{*3} 沖縄県立総合教育センター指導主事

本稿での表記	正式名称
『解説総則編』	『小学校・中学校・高等学校 学習指導要領 解説総則編』
『P P II』	沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII（令和2年度～令和6年度）
令和3年中教審答申	令和3年1月26日 中央教育審議会 答申
令和4年中教審答申	令和4年12月19日 中央教育審議会 答申
2022 参考資料	文部科学省（2022）「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和3年3月版）」

1 本研究における「目指す子供像」

各教科等における「育成すべき資質・能力」や「働かせるべき見方・考え方」を踏まえた上で、本研究で目指す子供像を次のように捉えて、研究に取り組んでいく。

- (1) 「持続可能な社会」の創り手としての意識を高め、学習を広げ深める子供
- (2) 課題解決に向けて、自らの興味・関心等に応じて学習を自己調整できる子供
- (3) 多様な他者と協働しながら、課題の発見や解決に向けて挑戦する子供

2 研究の方向性

本研究では、目指す子供像の実現に向けて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具体化を目指しながら、以下の視点に沿って授業デザインを構想していく。

	研究を進める上で留意すること
視点1	各教科等が「持続可能な社会（の創り手）」とどのように関連するのかを踏まえて授業を展開すること
視点2	各教科等の授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動を図ること
視点3	個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用を積極的に行うこと
視点4	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付け、各教科等の学習過程の充実を図ること

- (1) 視点1 各教科等の目標や内容、その教科等で育成を目指す資質・能力、その教科等で働かせる見方・考え方を踏まえ、各教科等が「持続可能な社会（の創り手）」とどのように関連するのかを想定しながら授業展開し、「授業デザイン」を構想していく。
- (2) 視点2 各教科等の目標や内容等を踏まえ、授業において「個別最適な学び」の「指導の個別化・学習の個性化」及び「協働的な学び」について、具体化を目指した「授業デザイン」を構想していく。
- (3) 視点3 各教科等の学習活動において、子供の実態や発達段階、学校の実情を踏まえた上でICTを活用し、共同で作成や編集等を行う活動や、多様な意見交流により合意形成を図る活動等ができるように「授業デザイン」を構想していく。また、新たな教材も積極的に取り入れながら、必要に応じて紙媒体等のアナログも使用することで、子供の多様性に対応していく。
- (4) 視点4 授業の学習過程において、個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）と協働的な学びを一体的に位置付けていくことで、子供の興味関心等に応じながら、授業の学習過程の充実を図っていくように「授業デザイン」を構想していく。

II 研究内容

本研究では、今年度のプロジェクト研究テーマ『「持続可能な社会の創り手」』としての意識を高揚する教育の充実」を推し進めていくために、以下の点を基に、研究を進めていく。また、「所員学習会」を年2回設定し、本総合教育センター全所員で共通理解を図りながら、研究の共有・深化を図っていく。

1 「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実とは

(1) 学習指導要領における「持続可能な社会の創り手」について

予測困難な時代において、「持続可能な社会」を目指していくことは、全世界にとっても最重要課題の一つであり、その社会の創り手を育成していくということも、最重要事項となっている。『解説総則編』には、「急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては、一人一人が持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される」と示されている。また、「これからの学校には、急速な社会の変化の中で、一人一人の児童（生徒）

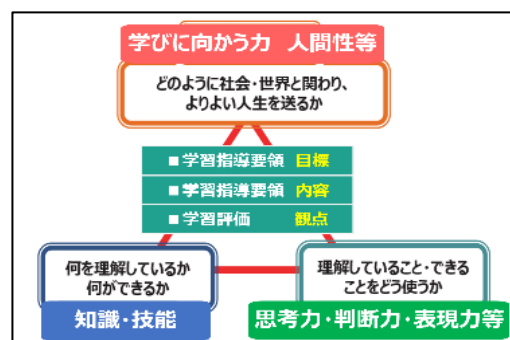


図1 育成を目指す資質・能力の3つの柱

が自分のよさや可能性を認識できる自己肯定感を育むなど、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあり、「環境問題が深刻な問題となる中で、持続可能な社会の実現に努めることが重要な課題となっている」と示されている。これらのことから学校教育では、実際の社会や社会の中で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」、学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」を育成していくことが求められている（図1・図2）。

以上のことから、今年度の理論研究を進めていくにあたっては、子供に『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実を図ることを目標とし、意識を高揚する教育の充実を図ることを念頭に置きながら、学習指導要領に基づいた授業づくりに取り組み、「各教科における授業デザイン構想例」を提案することを目指していく。

(2) SDGs、ESDの観点からの「持続可能な社会の創り手」について

沖縄県教育委員会が令和4年度に発行した「SDGs実践事例集 OKINAWA2022」の「はじめに」には、「私たちの未来をよりよいものにするために、国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）が採択され、現在、沖縄県は、全県をあげてSDGsの達成に向けたさまざまな取り組みを進めている」ことが記されている。SDGsとは、Sustainable（持続可能な）Development（開発）Goals（目標）の頭文字をとって付けられており、「世界や日本、沖縄県に存在する課題を自分事としてとらえ、持続可能な社会の実現に向けて自ら行動を起こせるようになることは、より良い社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることにつながります」と、持続可能な社会の実現に向けた担い手を育成していくことの必要性が述べられている。

また、この実践事例集の中で、地球規模の課題を自分事として捉え、解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）」について、「2015年に国連の全加盟国によって採択されたSDGs（持続可能な開発目標）を実現するための人材育成としてESDはますます重要視されている」ことが記されている。このように「持続不可能な社会（図3・図4）」をどのように「持続可能な社会」へと変化させていくかが、全世界の人々に重要なことであると言える。

(3) 『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚することとは

「SDGs実践事例集 OKINAWA2022」では、「この世界的な潮流の中、2020年度から順次実施されている新しい学習指導要領には『持続可能な社会の創り手の育成』としてのESDの理念が盛り込まれた」ことが記されており、その中で「今後ESDは幼稚園から高校まですべての学校で推進されることが必要」になったと述べられている。このように国連サミットで採択され、学習指導要領にも明記され、「持続可能な社会の実現を目指していく（図5）」ことは、幼児児童生徒だけが取り組んでいくことではなく、全世界が一丸となって目指して

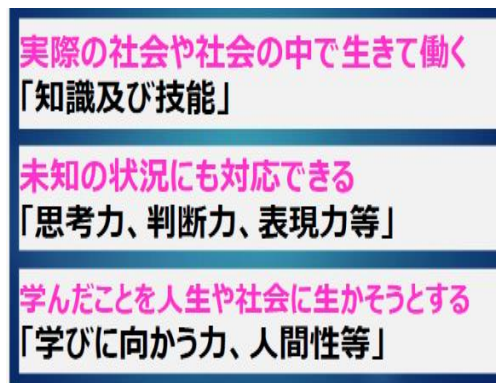


図2 学習指導要領におけるESD関連の記述

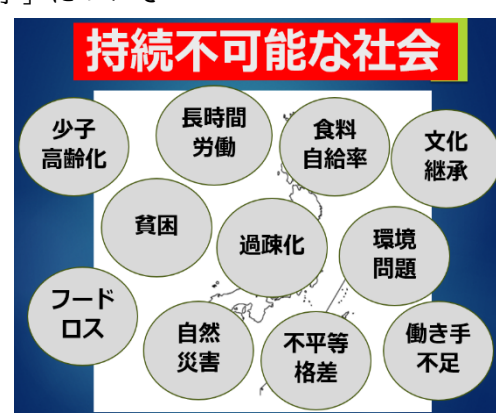


図3 持続不可能な社会（日本において）



図4 持続不可能な社会（世界において）

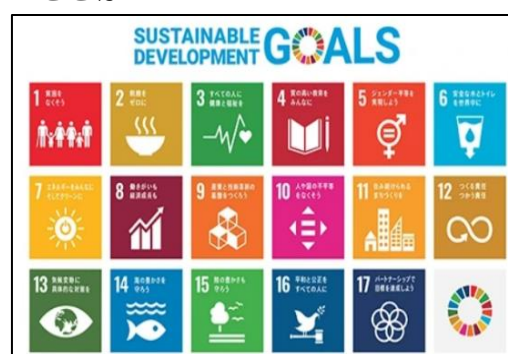


図5 SDGs 17のゴール

いく最重要事項であると捉え、沖縄県教育委員会としても推進しているところである。しかし、実際のところは中教審答申「令和の日本型学校教育」が打ち出されてからまだ間もなく、幼稚園から高校まで、現学習指導要領が完全実施されてから日も浅いという状況である。それらを踏まえて、プロジェクト研究に新しいテーマで取り組む初年度は、『「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育』の充実を目指していくこととした。ここで、「創り手を育成する」という表現ではなく、「創り手としての意識を高揚する」という表現にしているのは、現段階では、予測困難な時代に向かって子供自身が「持続可能な社会の創り手」として育っていくことに対する意識がしっかりと浸透しているかということに少し不安が残る状況であることから、まずは「意識を高揚」していくことを初期段階として設定したからである（図6）。



図6 教育によって「持続可能な世界」へ

そこで、今年度の理論研究を進めるにあたっては、持続可能な社会づくりの構成概念である「6つの概念」と、ESDの学習指導で重視する能力・態度である「7つの能力・態度」を念頭に置きながら、学習指導要領に基づいた授業づくり「各教科における授業デザイン」を提案していく（表1・表2）。その中で、子供に「今だけではない、ここだけではない、自分だけではない」という目的意識と相手意識をもたせながら、「時間・意識・人間を超えてできること（教育）は何か」を子供に考えさせていけるような授業デザインにしながら提案していく。その際、具体的な授業デザイン、具体的な実践例となるように、「令和の日本型学校教育」として求められている「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」、「協働的な学び」、「ICTの活用」の視点を取り入れて、教育現場ですぐに実践として生かせる具体例を盛り込んだ授業デザインを提案する。

表1 「6つの概念」

持続可能な社会づくりの構成概念(例)	
I 多様性	いろいろある
II 公平性	1人1人大切に
III 相互性	関わり合っている
IV 連携性	力を合わせて
V 有限性	限りがある
VI 責任性	責任を持って

表2 「7つの能力・態度」

ESDの学習指導で重視する能力・態度	
① 批判的に考える力	
② 未来像を予測して計画を立てる力	
③ 多面的・総合的に考える力	
④ コミュニケーションを行う力	
⑤ 他者と協力する態度	
⑥ つながりを尊重する態度	
⑦ 進んで参加する態度	

(4) 沖縄県教育委員会「沖縄県学力向上推進プラン・プロジェクトII」における総括目標・長期目標

沖縄県教育委員会が発行している「PPII」の中に、学力向上の全体構想図として「学力向上推進マネジメント構想図」が掲載されている（図7）。その図の中心には、学力向上を推進する柱として「主体的・対話的で深い学び」と「カリキュラム・マネジメント」があり、その先にある総括目標として「幼児児童生徒一人一人に『生きる力』の基盤となる新しい時代をつくるために必要とされる資質・能力を育む」ことを設定し、長期目標として「豊かな創造性を備えた持続可能な社会の創り手となる幼児児童生徒の育成」が設定されている。このように、沖縄県の教育施策の中でも、長期的に「持続可能な社会の創り手」を育成していくことが求められている。

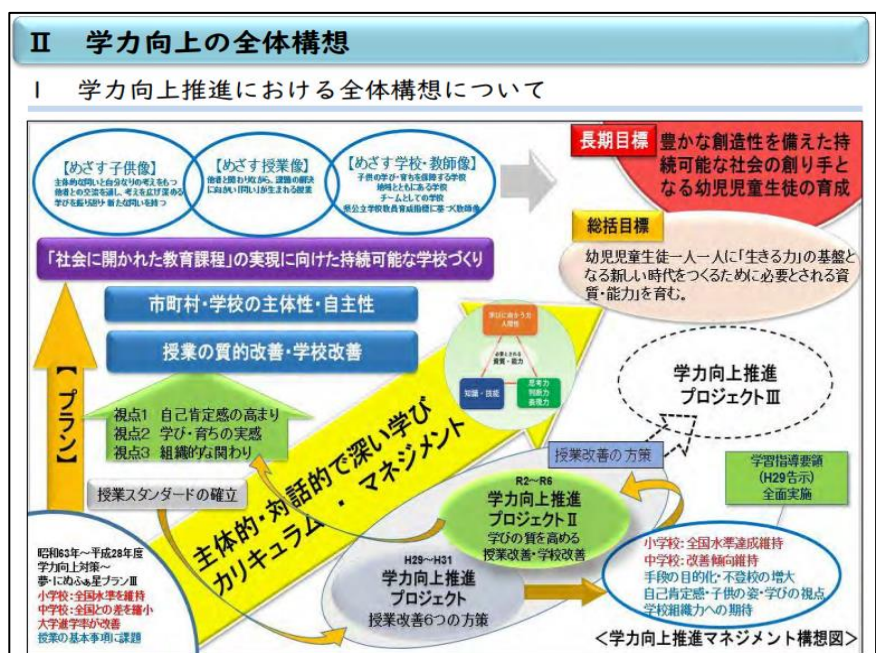


図7 長期目標「持続可能な社会の創り手」の育成

2 『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(R3中教審答申)について

(1) 「子供たちが育む資質・能力」とは

令和3年中央教育審議会『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」によると、「子供たちに育むべき資質・能力」について、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう」にすることが必要と示されている。その資質・能力を育むためのポイントとして、「新学習指導要領の着実な実施」と「これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTの活用が必要不可欠」という2点が挙げられている。

(2) 「新しい時代の学校教育(令和の日本型学校教育)の実現」とは

日本の学校教育には、元々、「日本型学校教育」と呼ばれる「知・徳・体を一体で育む学校教育」があり、これまで長く取り組んできている。知育として「学習機会と学力の保障」、徳育として「全人的な発達・成長の保障」、体育として「身体的・精神的な健康の保障」を目標として、3つを一体で育む学校教育に取り組んできた。

これまで元々あった「日本型学校教育」の成り立ちと成果を踏まえた上で、直面する課題と向き合い、これまでの日本型学校教育の考え方を基にしながら「新学習指導要領の着実な実施」と「学校における働き方改革」、「GIGAスクール構想」という新しい3つの動きが加わったことにより従来の学校教育のよさを受け継ぎながら、更に発展させて「新しい時代の学校教育の実現」を目指していくという中教審答申「令和の日本型学校教育」が打ち出された(図8)。

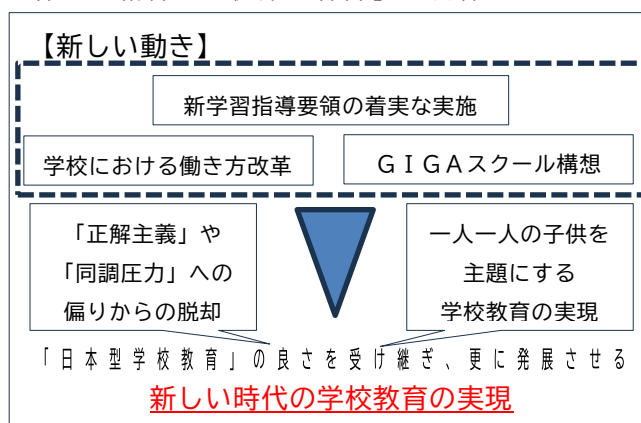


図8 新しい時代の「令和の日本型学校教育」

3 「令和の日本型学校教育」における「子供の学び」の姿について

(1) 「主体的・対話的で深い学び」について

平成29年に学習指導要領が改訂されて以来、「主体的・対話的で深い学び」というキーワードは、必ず目にしてきた言葉で、授業改善を推進する際には、授業の軸に据えて考えるべき最重要キーワードとなっている(図9)。その「主体的・対話的で深い学び」について考える際には、大きく2つに分けて、「授業改善に向けた『学習者』の視点」から捉える場合と、「授業改善に向けた

「主体的・対話的で深い学び」のある子供の姿(ピクトグラム例)			
興味や関心を高める 興味喚起	互いの考えを比較する 比較	思考して問い続ける 探究	電子黒板 デジタル教科書 デジタル
見通しを持つ 見通し	多様な情報を収集する 情報収集	知識・技能を習得する 習得	思考ツール 考えの形成 思考ツール
自分と結びつける 自分事	思考を表現に置き換える 表現	知識・技能を活用する 活用	整理分析 思考ツール
粘り強く取り組む 粘り強く	多様な手段で説明する 説明	自分の思いや考えと結び付ける 省察	発表共有交流 プレゼン
振り返って次へつなげる 振り返り	先哲の考え方を手掛かりとする 先哲参考	知識や技能を概念化する まとめる	表現発信 意見交換 共同作業 共同編集 他者参照 学習過程 コメント
	共に考えを創り上げる 共創	自分の考えを形成する アイデア	チャット
	協働して課題解決する 協働解決	新たなものを創り上げる 創造	振り返り 自己調整 積み重ね 振り返り

図9 NITS資料「主対深の生徒の姿(ピクトグラム)」を参考に作成


	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに興味や関心を持つ ・自己のキャリア形成の方向性と ・関連付ける ・見通しをもつ ・粘り強く取り組む ・自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を振り返る ・具体物を提示して引きつける ・子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ・子供が自らめあてをつかむようにする ・学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ・子供が自分の考えを持つようにする ・子供の思考を見守る ・子供の思考に即して授業展開を考える ・子供の考えを生かしてまとめる ・その日の学びを振り返る ・新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める ・教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ・地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める ・先哲の考え方を手掛かりに考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考を交流させる ・交流を通じて思考を広げる ・協働して問題解決する ・板書や発問で教師が子供の学びを引き出す
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ・知識を相互に関連付けてより深く理解する ・情報を精査して考えを形成する ・問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする） ・単元や各授業の目標を把握する ・ねらいを達成した子供の姿を具体化する ・教材の価値を把握する ・単元及び各時間の計画を立てる ・目標の達成状況を評価する

図10「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の視点」(国立教育政策研究所資料より)『授業者』の視点から捉える場合がある。実際に授業改善を推進する際に、どちらの視点に立って考えるかによって、授業改善する際の手立てや工夫も変わってくる。「国立教育政策研究所の資料」(図10)を参考にしながら、学習指導要領に基づいた授業づくりと、具体的実践例として「各教科における授業デザイン」を提案していく。

(2) 子供が主体的に学習に取り組むための「指導の個別化(個別最適な学び)」について

子供が自己調整しながら学習を進めていくためには、「指導の個別化」を図る必要がある。「指導の個別化」とは、個々の子供が異なる方法等で学習を進めることによって、一定の目標を全員が達成することを目指していくことである(図11)。学習を進める際に、支援が必要な子供に対しては、より重点的に指導を行うなど、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じて、指導方法、教材や学習時間等の柔軟な提供、設定を行う必要がある(表3)。

表3 指導の個別化を進めるにあたって想定される基本的な学習活動(全教科で共通)

学習活動	学習活動の内容
①基礎基本の定着	・前学年や前時までの既習事項確認(系統的・螺旋的・反復的)
②指導の系統性	・当該学年の指導事項を確実に履修し、着実に学びの積み重ね ・前学年・次学年の指導事項を意識した上での教師の教材研究
③学習の見通し	・学習進行表(学習計画表)を掲示し、自己調整しながら進める
④学習のゴールを明示	・単元全体への見通し、教師によるモデル提示(ゴールを意識)
⑤「問い」をもたせる 授業の工夫	・子供に「問い」をもたせるための発問の工夫 ・問いが次の新しい問いを生む「問いの連続」
⑥視覚化を図る	・思考ツールの活用により、自分の考えの視覚化・表面化することで、文字として視覚的に考えを捉えて、思考を整理する
⑦学び合い活動	・学び合うための視点を与える、学び合いを可視化する ・自他を比較し、その相違によって気付く(自他の相違)
⑧学習形態の工夫	・それぞれの課題に沿ったペア・グループ・全体での話し合い ・コミュニケーション能力の育成、考えを言語化(口述、記述)
⑨授業の整合性	・めあて⇔まとめ、まとめ⇔振り返り、めあて⇔振り返り (それぞれが正対することで授業の整合性・一貫性)
⑩ワークシートの活用	・授業内容や段階に応じて有効にワークシートを活用する(時間短縮、思考の整理等)
⑪ICT機器の活用	・子供の発達段階に応じて、リテラシー向上に向けて指導
⑫教師による指導法の 豊富さ(個別最適)	・児童一人一人が、自らに合った学ぶ方法を自ら選択し、自ら決定する (自己選択、自己決定)

(3) 子供が主体的に学習に取り組むための「学習の個性化（個別最適な学び）」について

子供が自己調整しながら 学習を進めていくためには、「学習の個性化」を図る必要がある。「学習の個性化」とは、個々の子供の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深めながら、広げるようにすることである。そのために子供の興味・関心や、キャリア形成の方向等に応じて、教師が一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、子供自身が、学習が最適となるように調整していく必要がある（表4）。

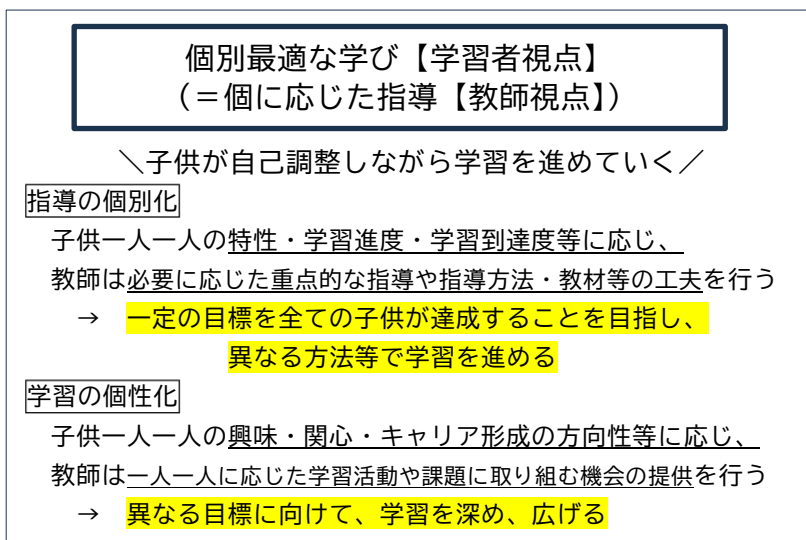


図 11 「指導の個別化」と「学習の個性化」（令和3年中教審答申より）

表 4 学習の個性化を進めるにあたって想定される基本的な学習活動（全教科で共通）

学習活動	学習活動の内容
①指導の個別化と同様	表3（①、③、⑤、⑥、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫）
②授業と家庭学習（自学自習）の連動	・「予習：インプット」と「復習：アウトプット」の往還 ・学習調整（自己調整）、メタ認知
③興味・関心の喚起	・個々の興味関心に沿った学習課題を教師及び児童自身が用意

(4) 「協働的な学び」について

探究的な学習や体験活動等を通して、子供が多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越えながら、「持続可能な社会の創り手」となることができるように、必要な資質・能力を育成していく（図12）。多様な考えが組み合わせることで、よりよい学びを生み出していくことにつながるように、教師は学習活動や学習課題の工夫を図りながら、適宜支援を行っていく必要がある（表5）。

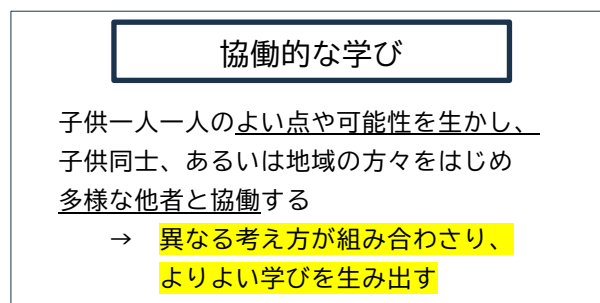


図 12 「協働的な学び」（令和3年中教審答申より）

表 5 協働的な学びを進めるにあたって想定される基本的な学習活動（全教科で共通）

学習活動	学習活動の内容
①指導の個別化と同様	表3（⑥、⑦、⑧、⑩、⑪、⑫）
②学習の個性化と同様	表4（②、③）
③互いの考えを比較する	互いの考えを比較することで自他の相違に気づき、修正
④多様な情報を収集する	多様な情報を収集し、知識を増やすことで選択肢を増やす
⑤思考を表現に置き換える	協働によって整理した思考を口語・記述化し、表面化する
⑥多様な手段で説明する	単解答だけでなく、複解答で考えることで、より最適解に
⑦先哲の考え方を手掛かりに	先哲の考え方を手掛かりにすることで考えに広がりや深まり
⑧共に考えを創り上げる	互いの考えを比較し、擦り合わせることでよりよい考えに
⑨協働して課題解決する	個々では難しい課題に対しても、互いに協働して解決する

(5) 「ICTの活用」について

ICTの活用に関する基本的な考え方として、令和3年中教審答申で「学校教育を支える基盤的なツールとして、ICTは必要不可欠なもの」であり、「これまでの実践とICTとを最適に組み合わせていく」ということを挙げている。ここでは、Society5.0 時代にふさわしい学校の実現として「学校教育の様々な課題を解決し、教育の質の向上につなげる」こと、「PDCAサイクルを意識し、効果検証・分析を適切に行う」こと、「ICTを活用すること自体が目的化してしまわないよう留意する」ことが示されている（図13）。

(1) 学校教育の質の向上に向けたICTの活用	(2) ICTの活用に向けた教師の資質・能力の向上	(3) ICT環境整備の在り方
<p>■ ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、今までできなかった学習活動の実施や家庭など学校外での学びを充実する</p> <p>■ 特別な支援が必要な子供へのきめ細やかな支援や、個々の才能を伸ばす高度な学びの機会の提供など、子供一人一人に寄り添った指導を行う</p> <p>・ 端末の日常的な活用 ・ ICTは「文房具」 ・ ICTの活用と少人数学級を両輪としたきめ細やかな指導</p>	<p>■ 教員養成・研修全体を通じ、教師が必要な資質・能力を身に付けられる環境を実現する</p> <p>■ 教員養成大学・学部は新たな時代に対応した教員養成モデルの構築や、不断の授業改善に取り組む教師のネットワークの中核としての役割を果たす</p> <p>・ ICT活用指導力の養成 ・ データリテラシーの向上 ・ 指導ノウハウの収集・分析</p>	<p>■ GIGAスクール構想により配備される端末は、クラウドにアクセスし、各種サービスを活用することを前提</p> <p>■ 各学校段階（小・中・高）における1人1台端末環境の実現と、端末の家庭への持ち帰りが望まれる</p> <p>・ デジタル教科書・教材の普及促進 ・ 教育データの利活用 ・ ICT人材の確保 ・ 校務効率化</p>

図13 ICTの活用に関する基本的な考え方（令和3年中教審答申より）

また、ICTを活用することで、「子供はどのような学習活動ができるのか」「教師はどのような支援を行うことができるのか」について、基本的なことを以下の表にまとめて示す（表6）。

表6 文部科学省YouTube「1人1台端末で学校が変わる！小学校編」を参考

学習活動	学習活動の内容
①他者の考え方（の過程）を参照できる	協働、交流、個への支援・手立て
②授業の流れを共有できる	協働、交流、個への支援・手立て
③学び方を自己調整できる	個別最適、学習調整、メタ認知
④クラウド上で共同編集ができる	制作（新聞等）、形成、ウェビング
⑤これまでの学び方を活用できる	既習事項、比較、前時までの内容確認
⑥自分の考えを構造化する	並び替え、比較、対比、推敲
⑦他者に指示・説明の明確化を図る	モデル提示、比較、対比、推敲、交流
⑧学習の振り返りを行う	児童の打ち込み、教師のまとめ
⑨教師がクラウド上で進捗を把握する	支援を要する児童への支援、対応
⑩カメラ機能を活用する（Data蓄積等）	お互いの発表や交流等をデータ保存して見返す

Ⅲ 各教科における授業デザイン構想例

これまで上記Ⅱの研究内容で述べた点を踏まえて、「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実を図るための「授業改善・指導改善」のポイントとして、各校種、各教科における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の具体化を目指した「授業デザイン構想例」を以下のようにまとめていく。

- 1 特別支援教育 「通常学級における授業づくりサポート」 9 ページ掲載
- 2 小学校国語 「第4学年 ここが〇〇！生き物のひみつを友達に紹介しよう」 10 ページ掲載
- 3 小学校算数 「第2学年 『分数』における問題解決的な学習」 12 ページ掲載
- 4 中学校美術 「第3学年 発見！日本の美～日本美術のよさや特徴について語り合おう～」 14 ページ掲載
- 5 中学校道徳 「第3学年 かけがえのない命『臓器提供』 D生命の尊さ」 16 ページ掲載
- 6 高校国語 「『伊勢物語』について考察し、レポートにまとめよう」 18 ページ掲載
- 7 高校公民 「公共『持続可能な社会づくりの主体となる私たち』」 20 ページ掲載
- 8 高校数学 「学校設定科目 『三角比』など」 22 ページ掲載
- 9 高校理科(生物) 「生物の多様性と生態系『SDGsに関連したパフォーマンス課題』」 24 ページ掲載
- 10 高校芸術(音楽Ⅰ) 「変奏曲の創作に挑戦しよう（創作）」 26 ページ掲載
- 11 高校芸術(美術) 「人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～」 28 ページ掲載
- 12 高校情報 「情報デザインとコンテンツ制作」 30 ページ掲載
- 13 高校工業 「第2学年 実習『溶接』」 32 ページ掲載

特別支援教育

通常学級における授業づくりサポート

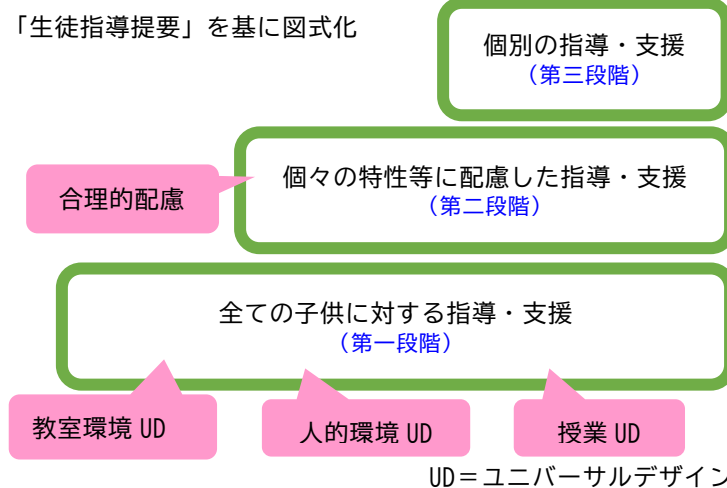
「個別最適な学びと協働的な学びの具体化」の基盤づくりとして、通常学級において教育のユニバーサルデザインにより学びやすい環境を整えること、また個々の特性等に応じた指導、支援への助言等を行い、授業づくりのサポートを行う。

通常学級における授業づくりサポート

まず、発達障害のある児童生徒を含む全ての児童生徒を対象に学級全体での指導や支援を行います。分かりやすい授業、認め合い支え合う学級集団が基盤になります。学級全体への指導や支援だけでは不十分な場合は、学級の中で個別的な指導や配慮を工夫します。

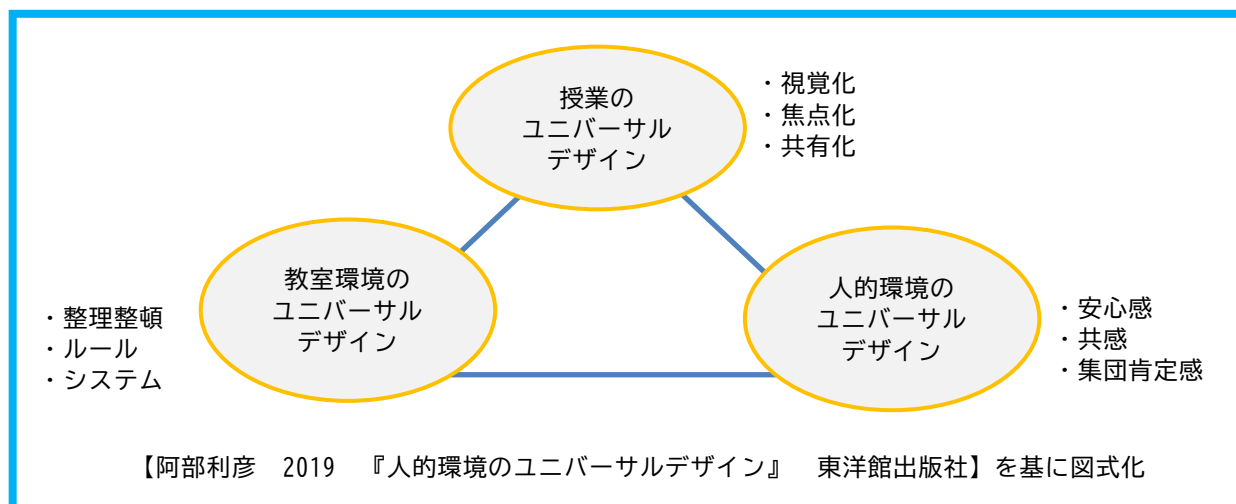
【生徒指導提要 P272】

「生徒指導提要」を基に図式化



「通常学級のユニバーサルデザイン（UD）は発達障害を含む配慮を要する子どもには『なくてはならない支援』であり、どの子どもにも『あると便利で、役立つ支援』である。

【佐藤慎二 2015 『実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡ』 東洋館出版社】



ユニバーサルデザインの視点

UDの視点として、集団への支援効果によって、個別の支援は最小限になる。

学びやすい環境を整え、個々の特性等に応じた指導・支援を行うことで授業づくりのサポートに取り組む。

〈授業デザイン構想例 2〉



小学校 第4学年 国語 C 読むこと(説明的な文章)教材名「ウミガメの命をつなぐ」
「ここが〇〇！生き物のひみつを友達に紹介しよう」

教科としての特性

教科の目標では、まず、国語科において育成を目指す資質・能力を国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時的に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要である。 【小学校指導要領解説 国語編 P11】

本教科で育成を目指す資質・能力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。 【小学校指導要領解説 国語編 P11】

本教科で働かせる見方・考え方

言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。 【小学校指導要領解説 国語編 P12】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

「言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して資質・能力を育成する。言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成するとしているのは、この考え方を示したものである。」という記述からは、どの教科を指導する際にも言語活動(言語による活動=国語科)が重要であることが分かる。そのことを踏まえると、「持続可能な社会の創り手」を育成していくには、「国語で正確に理解し適切に表現する育成する資質・能力を育成する」ことがより必要になってくるだろうと考える。 【小学校指導要領解説 国語編 P12】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>学習のゴールである「自分が興味をもった生き物」紹介をする際に、その選んだ理由について叙述を基にしながら自分の考えをまとめる。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>主教材での学習指導を行いながら単元を通して並行読書にも取り組むことで、それぞれの興味関心に応じた生き物(学習)に取り組む。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>文章を読んで感じたことや考えたことを共有することで、自他の相違に気づき、一人一人の感じ方や考え方について考えて、そのよさを見付けることで自己に生かしていく。</p>
--	---	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

【本単元全体で活用が想定されるICTの機能】

電子黒板	デジタル教科書	検索機能	入力機能	実物投影機
カメラ機能	思考ツール	スライド機能	参考動画	学習動画
共同編集(共有)機能		コメント(メッセージ)機能		

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

「個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動」を展開するには、国語科の内容〔思考力、判断力、表現力等〕の内容「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」「C 読むこと」の各々の指導事項や内容に留意し、領域の構成や学習過程に着眼していくとよい。各々の学習過程に応じた学習活動を位置付けながら、「どの学習活動を通して、どのような資質・能力を育成していくのか」を具体的にイメージしながら構想していくと授業がデザインしやすくなる。

単元名：「ここが〇〇！生き物のひみつを友達に紹介しよう」 全9時間

流れ	授業の流れ（第8／9時） 本時における学習過程「考えの形成」	指導の 個別化	学習の 個性化	協働的 な学び	I C T の活用
導 入	1 前時までの学習を想起する。 ・「学習のゴール」を再確認し、学習進行表で全体の流れを確認したり、モデルを提示したりしながら、本時の学習のめあてと、その方法に導いていく。				
	2 本時のめあてを確認する。 (仮) 自分が選んだ生き物の興味をもったところと、その理由（叙述）をはっきりさせて、自分の考えをまとめよう。				
	3 めあての達成に向けて、学習の流れを確認する。（意見交換する目的と方法を確認） (1) ホップ：理由を確かめる (2) ステップ：意見交換をする (3) ジャンプ：自分の考えを書く				
展 開	4 ホップ 個々で興味をもったところと、その理由に基づく叙述を確かめて、見直しをする。				
	5 ステップ グループで意見交換をする。 【方法】平行読書で自分と同じ本や異なる本を選んだ子供同士で意見を交換し合う。 【目的】お互いの考えの理由を確かめて、更に広げたり深めたりする。				
	6 ジャンプ お互いの気付きを生かして、自分がどうしてそのように考えたのか、その理由について自分の考えをまとめる。				
終 末	7 本時の学習を振り返る。 ・叙述に基づき、理由（生き物の特徴や成長過程、想像したことや考えたこと）を明確にすることができたかどうか、本時のめあてと正対しながら振り返る。				
	8 次時の学習の見通しをもつ。 ・次時の学習内容を伝える。 ・第8時迄に積み重ねてきた自分の考え（考えの形成）に基づきながら、共有していく。				

〈授業デザイン構想例 3〉



小学校 第2学年 算数 「分数」における問題解決的な学習

教科としての特性

算数科の学習においては、「数学的な見方・考え方」を働かせながら、知識及び技能を習得したり、習得した知識及び技能を活用して探究したりすることにより、生きて働く知識となり、技能の習熟・熟達にもつながるとともに、より広い領域や複雑な事象について思考・判断・表現できる力が育成され、このような学習を通じて、「数学的な見方・考え方」が更に豊かで確かなものとなっていくと考えられる。

【小学校指導要領 解説 算数編 P7】

本教科で育成を目指す資質・能力

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けるようにする。
- (2) 日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題解決しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

本教科で働かせる見方・考え方

「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、論理的、統合的・発展的に考えることである。」 【算数科の学習における「数学的な見方・考え方」P7】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

「数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気づき学習したことを生活や学習に活用しようとする態度」を養う。

【小学校学習指導要領 解説 算数編 P19】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

指導の個別化

ノート記録が困難な児童に対しては、本時で使うワークシートを配布して貼らせたり、どこに何を書いているかわからない児童に対して実物投影機を使ったりしてノート指導を行う。また、イメージを持たせるために具体物を用いる。

学習の個性化

児童が、繰り返し練習をしたり、自分に合ったペースで学習を進めたりしていけるように、講義動画や電子図書、ドリルやインターネット等の準備や整備を行う。

協働的な学び

問題解決場面で、解決方法が分からないときに、ペアやグループの友達と話をさせて見通しをもたせる。また、他者参照させることで、自分の考えと友達の考えを比較・検討させ、よりよい考えにさせていく。

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・授業の流れを共有・・・本時の学習の見通しが持てるように、授業の流れを表示する。
- ・話し合い・・・グループや全体での話し合いを音声入力させることで、キーワードとなる文字を視覚化する。
- ・他者参照・・・友達の考えを確認し、自分の考えと比べさせる。
- ・デジタル教科書の活用・・・余計な情報を省いて学習問題を提示する。
- ・指示・説明の明確化・・・ノート指導で、どこに何を書いているのかわからない児童に説明する。
- ・振り返り・・・今日の学びをみんなまで共有する。

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザイン（単元）を構想するにあたってのポイント

本単元でも問題解決学習の流れで学習を進めていく。1/2 や 1/4 などの簡単な分数を導入する際、具体的な操作活動を通して指導する。既習事項を生かしながら、考えやすく、扱いやすい正方形や長方形の紙を様々な方法で半分に折って切ったり、それを元に戻したり重ね合わせたりするなどの操作活動を通して、分数の意味理解を実感的に捉えられるようにする。それにより、子どもなりの発想や表現を引き出し生かしながら、これまであまり深く考えずに使ってきた「半分にする」ということの意味理解を、「同じ大きさに2つに分ける」ということとして明らかにしていく。

単元名：第2学年「分数」における問題解決的な学習（2時間扱い）

流れ	単元の流れ（1/2） ・授業を展開していく上での留意点	指導の 個別化	学習の 個性化	協働的 な学び	ICT の活用
導入	1 学習課題を知り、めあてをつかむ。 (1)ピザは同じ大きさに切れているかを考える。				 デジタル 実物投影機 ノート指導
	(2) 本時の学習問題を知る。 ・問題の把握をじっくりと行う。 ・既習と未習の違いについて考えさせる。				
	(3) 本時のめあてをつくる。 ・「問い」を生かしためあてを立てる。 ・児童のつぶやきを拾い板書する。				実物投影機 ノート指導
見通す	2 見通しをもつ。 (半分に折る、切って重ねる) ①縦 ②横 ③斜め右下 ④斜め左下				 デジタル
展開	3 見通しを基に自力解決する。 ・どのように解決するか自己選択させる。				
	4 解決方法について各自の考えを交流する。 ・自分の考えとの比較や考え方の良さなど交流の視点を与える。				 コメント
	5 全体での交流活動を行う。 (1) 代表児童が調べた結果を発表する。 ・発表を聞く際の視点を与える。				 プレゼン
	(2) 解決方法の共通点を見つける。 ・出てきた解決方法を仲間分けし、どの考えにも共通する考え方を見つけさせる。 (3) 1/2の書き方と読み方を知る。 ・教科書をふり返し、算数用語の意味理解・学習の定着を図る。				
終末	6 全体でのまとめをし、振り返る。 (1) 本時の学習をまとめる。 ・めあてに正対した振り返りになるよう、児童の言葉でまとめる。				
	(2) 類似問題を行う。 ・本時の見取りを行い、児童の理解の把握を行う。				
	(3) 半分にできたのか確かめる。 ・具体物操作が必要な児童への配慮を行う。 (具体物の準備)				
	(4) 本時の学習を振り返り、各自で振り返る。次時につなげる。 ・本時で身に付けたい見方・考え方をもとに振り返りの視点を与える				

文部科学省 2018 小学校学習指導要領 解説 算数編

文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 算数】



中学校 第3学年

発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

教科としての特性

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【中学校学習指導要領解説（美術）編 P9】

本教科で育成を目指す資質・能力

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【中学校学習指導要領解説（美術）編 P9～24】

本教科で働かせる見方・考え方

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。

【中学校学習指導要領解説（美術）編 P10】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく。

【中学校学習指導要領解説(美術)編 P1】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>生徒の学習進度や理解度に応じて柔軟に対応する。例えば、美術鑑賞では、個別のワークシートや補足資料を使って、生徒それぞれの理解を深めるとともに、鑑賞の楽しさを広げることができるよう支援する。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>生徒の興味や強みを活かして学ぶことを支援する。例えば、特に興味を持った作品やテーマを深掘りし、自分なりの視点で評価や感想をまとめることを促す。これにより、生徒の主体的な学びと成長が促進される。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>グループディスカッションや発表を通じて生徒同士が意見を共有し合う場を作る。例えば、「松林図屏風」と「ミッデルハルニスの並木道」の比較鑑賞をし、感想を発表することで、より深い理解が得られる。</p>
--	--	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

・日本美術の電子教材やデジタルワークシート、美術館のデジタルアーカイブを活用して、生徒が自分のペースで質の高い学びを実現する。

・タブレットを使って意見交換を行い、議論や発表を通じて多様な視点を共有する。

・生徒の学習成果をデジタルで保存・共有しフィードバックを行う。














視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

単元を通して個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが大切です。生徒は自分たちの学習進度で美術作品を鑑賞し、作品のよさや美しさや美術文化について造形的な見方・考え方を深める学習活動の展開を工夫します。生徒の実態に合わせて多様な学習の場を設定し、ICTを活用したりする等、美意識を高め、見方や感じ方を深める指導の工夫が大切です。

単元名：発見！日本の美 ～日本美術のよさや特徴について語り合おう～

流れ	単元の流れ（全2時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1次	<p>1. 鑑賞（1時間）</p> <p>●日本と西洋の美術作品を比較鑑賞し、造形的な視点に着目し、作品の見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松林図屏風」と「ミッデル ハルニスの並木道」を比較鑑賞し、余白や空間の効果、立体感や遠近感、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解する。 ・作品の表現の特質から感じ取ったことや考えたことなどをワークシートに記述する。 ・両作品の表現のよさや工夫についてグループで話し合い、クラス全体に発表する。 	<p>本時目標</p>  <p>造形的な視点</p> 	<p>思考判断</p>  <p>ワークシート</p>  <p>新たなもの</p> 	<p>比較鑑賞</p>  <p>グループ</p>  <p>全体共有</p> 	<p>電子黒板 デジタル教科書</p> <p>スライド機能 入力機能</p> <p>コメント機能</p> <p>共同編集機能</p>  <p>デジタル</p>
2次	<p>2. 鑑賞（1時間）</p> <p>●日本の複数の美術作品を比較鑑賞し、美術文化について考え、見方や感じ方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「松林図屏風」、「燕子花図屏風」、「名所江戸百景亀戸梅屋敷」、「洛中洛外図屏風」を比較鑑賞し、造形的な視点を働かせながら、表現の相違点や共通点等に気付いたことをワークシートに記入し、グループで話し合い、クラス全体に発表する。 ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、作品のよさや美しさ、美術文化などについてワークシートにまとめる。 	<p>本時目標</p>  <p>ワークシート</p> 	<p>ワークシート</p>  <p>ワークシート</p> 	<p>比較鑑賞</p>  <p>全体共有</p>  <p>思考表見</p> 	<p>電子黒板 デジタル教科書</p>  <p>デジタル</p>  <p>プレゼン</p>
授業外	<p><授業外：題材が終了後></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを通じて生徒の学習進度や理解度を把握し、個別のフィードバックを提供して理解を深める。また、生徒が自分のペースで学び、日本美術作品の特徴や美しさを掘り下げて学ぶ。さらに、生徒同士が意見交換を行い、深い理解と新たな発見を得る。 				 <p>振り返り</p>

※ピクトグラムの活用は、生徒や学校の実態に応じて取捨選択する

〈授業デザイン構想例 5〉

中学校 第3学年 道徳 かけがえのない命「臓器提供」
単元構想：現代的な課題における探究のプロセスを踏まえた学習



教科としての特性（教科化に伴う）

答えが一つではない道徳的な問題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P2】

本教科で育成を目指す資質・能力 ※道徳の目標に「見方・考え方」の表記はなし

- ・それぞれの場面において善悪を判断する力である。つまり、人間として生きるための道徳的価値が大切なことなどを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるか判断する能力である。【道徳的判断力】
- ・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のことである。人間としてのよりよい生き方や善を指向する感情のことでありとも言える。【道徳的心情】
- ・道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働きである。【道徳的实践意欲】
- ・それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え【道徳的態度】

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P18】

本教科で働かせる見方・考え方

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P13】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

第3章「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2（6）

科学技術の発展と生命倫理との関係や持続可能な発展など現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるよう努めること

【中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳 P99】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

指導の個別化

・生徒一人一人が道徳的な問題意識を想起し、自分の問題として深く見詰め、日常の学校生活を通して道徳的問題に気付く、自分の「学習課題」を設定する。

学習の個性化

・生徒一人一人が自らの道徳的な問題に気づき、問題意識をもつ。その解決に向けた学習活動や学習課題を準備する。
※子供達の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるように工夫する。

協働的な学び

・どの内容項目をのぼしたいか選んだ目標の情報を共有する。
・臓器提供に賛成か反対かポジショニング機能を用いる。（理由を意見交換）
・振り返り等を他者参照することで自分の考えと比較することができる。・お互いの考えや振り返りを共有する。

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

















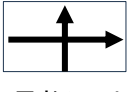





- ・授業の流れを共有・・・本時の学習の見通しが持てるように、授業の流れを表示する。
 - ・用語等を調べたり、インターネット検索で調べたり、授業に関連する動画を視聴する。
 - ・他者参照・・・友達のを確認し、自分の考えと比べる。
 - ・振り返り・・・学習を通して学んだ事をクラスで共有する。
- ①電子黒板 ②デジタル教科書 ③検索機能 ④入力機能 ⑤カメラ機能 ⑥思考ツール
⑦スライド（プレゼン）機能 ⑧学習動画 ⑨共同編集（共有）機能 ⑩コメント機能

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

単元名：「平和を築くために大切な事は何だろう？」～地域を見つめて～
 「パッケージ型ユニット道徳」とは、学習の主人公である子供たち一人一人が自らの学びを位置づけ、その道徳的価値を追求するための課題意識を明確に一貫した学びを提供すること。本ユニットは、各教科、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事等との関連を図る「複合型ユニット」を取り入れる。
 【①公民】平和主義【②総合】平和祈念資料館訪問【③道徳】折り鶴プロジェクト【④公民】新しい権利【⑤道徳】命のトランジットビザ（国際理解）【⑥道徳】「臓器提供」〈本時〉【⑦音楽】月桃【⑧学活】慰霊の日特設授業【⑨国語】平和の作文・メッセージ【⑩総合】地域の戦跡巡り【図書委員会】平和企画展
 【現代的な課題】食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、社会参画、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育等

流れ	単元の流れ（5/10）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
事前	【課題の設定】 ※年度はじめに個々人の道徳目標を決める。 ※単元に入る前に単元を貫くテーマについての自分自身の考えをもたせる	 見通し			 目標設定
問題意識をもつ	【情報の収集】 1 クラスの実態を知る 「臓器提供意思表示カード」判断をする。 A自分だったら提供するかB提供しないか理由を基に選択する 【表現】判断した根拠をペアで意見交流する クラスの実態が分かるように可視化する	 興味喚起		 対 比較	 判断の共有 電子黒板
	【課題の設定】 2 本時のめあてを確認する 「命の尊さについて考える」	 見通し		 対 比較	
教材との対話	【情報の収集】 3 教材での学び問題を追求する ①教材の提示：電子黒板・教科書・音声など ②それぞれの立場で考える ○様々な立場から考える C 提供する家族 D 移植する家族		 対 情報収集	 対 説明	 プレゼン
自己との対話	【整理・分析】 臓器提供について、家族や周囲の人たちが迷うのはどうしてだろう	 自分事		 対 表現	
	【表現・まとめ】 4 自分自身の問題として捉え直す A B C Dそれぞれの立場で考える 「あなたにとっての命とは？」	 粘り強く	 深 省察	 対 協働解決	 思考ツール
まとめる	【まとめ】 5 道徳的価値をまとめ、つなげる ①本時の学習を振り返り、今後の生き方に生かす	 振り返り	 深 省察		 振り返り
	【表現】 ②振り返りの共有		 深 省察		 電子黒板

浅見哲也 安井政樹 2023 『道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び』 明治図書

田沼茂紀 2017 『道徳科授業の作り方パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価』 東洋館出版

〈授業デザイン構想例 6〉



高等学校 国語科 言語文化 『伊勢物語』について考察し、レポートにまとめよう。

教科としての特性

国語科において育成を目指す資質・能力を国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力とし、国語科が国語で理解し表現する言語能力を育成する教科であることを示している。

【高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編P22】

本教科で育成を目指す資質・能力

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- (3) 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

【高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編P21】

本教科で働かせる見方・考え方

言葉による見方・考え方を働かせるとは、生徒が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。様々な事象の内容を自然科学や社会科学等の視点から理解することを直接の学習目的としない国語科においては、言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としている。このため、「言葉による見方・考え方」を働かせることが、国語科において育成を目指す資質・能力をよりよく身に付けることにつながる事となる。

【高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説国語編P23】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

持続可能な社会を作るための課題解決に向けて取り組み、自分の意見を効果的に表現するための言語手法を身に付ける。そのために国語科の目標(3)「言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」ことが必要だと考える。言語能力を育成する中心的な役割を担う国語科においては、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

「国立ちねん博物館の学芸員として『伊勢物語展』を成功させよう」というパフォーマンス課題を設定し3つの考察テーマから取り組みやすいテーマを選び自分に合った形式の企画書を作成する。

<p>指導の個別化</p> <p>3つの考察テーマか自分に合ったテーマを選択し取り組む。</p> <p>①「伊勢物語」に描かれた恋愛 ②作品が後世に与えた影響 ③「みやび」という言葉について</p>	<p>学習の個性化</p> <p>企画書の提出はリーフレット式、様式に沿った紙の企画書、PowerPointなど、企画書の内容や自分に合った提出方法とする。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>同じ課題を選んだもの同士情報交換したり、逆に違う課題の発表を聞いたりして理解を深める。全体発表や振り返りを共有して自分の学びに生かす。</p>
--	---	---

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

電子黒板、スライド（プレゼン機能）、検索機能、参考動画、学習動画、共同編集機能
















視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（単元）を構想するに当たっての留意点

授業デザインに当たり、一人一人が自分で課題を選択し、自分自身でさまざまなアプローチや解決の方法、成果物が考えられる課題を設定した。また、協働的な学びになる必然性が生まれるようさまざまな答えが考えられる「問い」を設定し、役割を設定することで自分事化できるようにする。

単元名：『伊勢物語』について考察し、レポートにまとめよう。

流れ	単元の流れ（全6時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1次	【導入】単元の流れを説明 ・学習のまとめとして「ちねん博物館の学芸員として『伊勢物語展』を成功させよう」というパフォーマンス課題に取り組むことを伝える。 ・作者や成立、内容について学習する。 ・重要語句の意味調べをする。				電子黒板 スライド
2次	【展開①】前半の読解 〈昔、男～着たりける。〉 ・重要語句と助動詞の接続、意味、活用形を、係結びを確認しながら現代語訳する。 ・登場人物と物語の流れを確認する。				電子黒板 スライド
3次	【展開①】後半の読解 〈春日野の～しける。〉 ・助動詞「けむ」の復習 ・「序詞」「掛詞」を学習し、歌に表現された男の心情を読み取る。 ・重要語句と助動詞の接続、意味、活用形を確認しながら現代語訳する。				電子黒板 スライド
4次	【展開②】 ・パフォーマンス課題に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ちねん博物館の学芸員として『伊勢物語展』を成功させよう！</div> ① 平安時代の恋愛事情と伊勢物語に描かれる恋愛 ② 歌物語『伊勢物語』が後世に与えた影響 ③ 「みやび」とは？意味と考え方、現代社会にある「みやび」 ・博物館パンフレットやレポートを見せてイメージをもたせる。 ・関連図書を参照する。	 	 	 	電子黒板 検索機能 参考動画 学習動画  デジタル  プレゼン
5次	【まとめ】 ・同じテーマで集まり、お互いにレポートを評価する。 ・同じテーマの班から選出された生徒のレポートを全体に紹介する。				共同編集機能  コメント

〈授業デザイン構想例 7〉

高等学校 公民科 公共
「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」



教科としての特性

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。 【高等学校学習指導要領解説 公民編 P21～】

公民科で育成を目指す資質・能力

社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

【高等学校学習指導要領解説 公民編 P21～】

公民科で働かせる見方・考え方

〔見方〕人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出す、着目する。

〔考え方〕それらの課題の解決に向けて選択・判断の基準となる考え方などを関連付ける。

【学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）別添資料】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成をする。

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

個別最適な学び		協働的な学び
<p>指導の個別化</p> <p>社会の諸課題について、生徒自身が問い(課題)を設定する。それぞれが社会課題(少子高齢化、観光振興、エネルギー等)について、手段を選択し、持続可能な解決策の提案を行う。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>持続可能な解決策の提案に向けて、それぞれで構想していく。生徒一人一人の興味・関心に応じた課題意識を基に考察する。それぞれの視点で課題解決案を提案する。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>課題解決策を立案するため、友人との対話、地域の自治体職員等、外部機関や専門家との対話を行う。スライド作成はクラウドで行い、常に他者参照できるように設定する。</p>

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

【本単元全体で活用が想定されるICTの機能】

Microsoft Office365 の活用 (Teams [チャット、ファイル共有、共同編集、オンライン会議]、PowerPoint [スライド作成、プレゼンテーション]、Forms [アンケート、振り返り] 等)


視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」は公共のまとめとして位置付けられる単元である。社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、これまでに習得してきたことを活用し、多様性を尊重しながら、社会参画を視野に探究することができる。このような授業は従来からも取り入れられてきたものであるが、ICTを活用することで、より効果的に生徒が自身の興味関心に基づいて課題を設定、追究でき、また多様な他者と協働しながら学び、思考を整理し、深めることができる。

単元名：「持続可能な社会づくりの主体となる私たち」全8時間

流れ	授業の流れ（第8／8時） 本時における学習過程「考えの再構築」	指導の 個別化	学習の 個性化	協働的 な学び	ICT の活用
導入	1 前時までの活動を振り返り、本時の問い、活動を確認する。 ① グループやクラスでの発表を踏まえ、自分の課題解決案を修正し、完成させ、提言としてまとめる。 ② 本時の終末に個人でこれまでの単元の学習を振り返ることを確認する。 本時の問い：「生徒個人で設定した問い」 例) 私たちはフェアトレードと、安価な商品を求める消費者意識とどう向き合うべきだろうか 等		主 		
		主 			
展開	2 各自で個人の提言案の修正を行う。 (妥当性や、実現可能性についての見直し) ・他者参照し、改善点を具体化する。 ・多面的・多角的に考察する。		深 	対 	ICT 
	3 修正した提言案の全体シェアと意見交換 ・クラス全体で共有し、多様な意見を比較・検討する。 ・聞き手はチャット機能でコメントする。 ・他者の提案から学び、自分の考えを更に深める。 ・プレゼン、意見交換を通じて、自分の考えを再構築する。		深 	対 	ICT  ICT 
終末	4 本時の学習を振り返る。 ・本時の振り返りを Teams 上の1枚ポートフォリオシートへ入力、または紙のポートフォリオシートの画像を投稿する。	主 	深 		
	5 個人で単元の学習を振り返る。 単元を貫く問い：「持続可能な社会づくりに向け、自分自身にできることは何だろうか」 ・持続可能な社会づくりについて関心をもち、自ら課題を見だし、その意義や課題解決に向けた自らの在り方について記述、入力する。 ・学んだ内容を実生活や今後の学習にどう生かすかを考える。	主  主 	深 		

〈授業デザイン構想例 8〉

高等学校 数学（学校設定科目） 「三角比」など



教科としての特性

数学は科学の言葉といわれ、自然科学の様々な分野で事象が数学的に表現処理されて研究されることを表している。また数学は、自然科学のみならず、社会科学や人文科学でも積極的に活用されている。
【高等学校学校学習指導要領解説 数学編 P7】

本教科で育成を目指す資質・能力

数学は人間の思惟により創り出されるものであり、数学的な事実に関しては誰もが対等な立場で議論をすることができる。そのような議論により、客観的・論理的に物事を説明する力は育成される。このような力は、他教科などの学習でも社会生活でも大いに役立ち、国際化や情報化が進展する今日のような時代においてとりわけ重要な能力であるといえる。
【高等学校学校学習指導要領解説 数学編 P7】

本教科で働かせる見方・考え方

高等学校数学科では、数学の学習を単に知識や技能などの内容の習得にとどめるのではなく、数学的活動を重視して創造性の基礎を養い、すべての高校生の人間形成に資する数学教育を意図している。
【高等学校学校学習指導要領解説 数学編 P8】

視点1 各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

グローバル化や情報化が進展する今日のような時代において、異なった文化的背景や価値観をもった人たちと共に生きていく必要性の高まりを考慮すると、数学の学習を通して育成される、自らの考えや判断の前提を明確にし、根拠を示しながら考えや判断についての的確な説明をして他に理解を得る力はとりわけ重要な力であると言える。

視点2 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身に付けさせたい資質能力を踏まえた難易度の問題を作成する（目標設定及び単元テスト範囲の提示）。 ・基礎～大学受験レベルまでの生徒への対応を念頭に取り組む。 ・ICT活用の推進する。 	<p>学習の個性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業クラス」と「自由進度学習クラス」で行う。 ・定期考査は実施せず、単元テストを2回ずつ実施する。2回目（再テスト）のテストは希望制にする。 	<p>協働的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業クラスにおいては、ペア学習やグループ学習を行う。 ・自由進度学習クラスは、生徒間での質疑応答を行う。 ・ICTを活用する。
--	--	---

視点3 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用











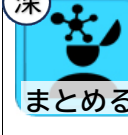



- ・電子黒板
- ・デジタル教科書
- ・授業の流れを共有（Teams等）
- ・学習アプリ（Classiまたはスタディサプリなど）
- ・その他、学習動画等

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

- ・授業クラスにおいては、基礎問題を中心に行い、単元テストの範囲を全ては行わなくてもよい。自学（復習）の大切さを確認する。
- ・宿題は出さず2回目の単元テストを希望制にすることで生徒の主体性を育てる。

単元名：第3学年「三角比」など					
時間	単元計画（全9時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元における評価（観点別評価含む）のつけ方や単元テスト実施までのスケジュール等を周知する。 ・単元テスト範囲のプリントを配布する。 ・授業クラスと自由進度学習クラスを選択して各教室に移動する。 ・授業クラスにおいては、授業計画を周知する。 	 見通し	 比較	 自分事	 デジタル
5時間	<p>【授業クラス】 基本問題を中心にペア学習やグループ学習を行い生徒間での質疑応答の時間を多く取る。またICT教材も使用する。</p> <p>【自由進度学習クラス】 教科書や模試、大学受験レベルの過去問など、各自のレベルに応じた内容の問題に取り組む。またICT教材も使用する。</p>	 習得  探究	 自分事  先哲参考	 説明  協働解決	 デジタル
1時間	単元テスト①		 粘り強く		
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト①の返却 ・復習 ・振り返りシートへの記入 ・単元テスト②受験希望の確認 	 振り返り	 省察	 まとめる	 デジタル
1時間	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト②受験希望者は、単元テスト②を受ける。 ・単元テスト②受験を希望しない生徒は単元の復習または次時の予習を行う。 		 粘り強く	 まとめる	

文部科学省 2018 高等学校学習指導要領 解説 数学編 理数編
 工藤勇一 2018 『学校の「当たり前」をやめた。』 時事通信社

〈授業デザイン構想例 9〉

高等学校 理科 生物基礎 「生物の多様性と生態系」 SDGsに関連したパフォーマンス課題



教科としての特性

「生物基礎」は、中学校までに学習した内容を基礎として、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する科目である。

【高等学校学習指導要領解説 理科編P113】

本教科で育成を目指す資質・能力

「生物基礎」の特徴は、生物や生物現象に関わる基礎的な内容を扱い、日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解させるとともに、科学的に探究する力と態度を育成することである。「生物基礎」は、このような特徴をもった科目であるので、生徒に身の回りの事物・現象に関心をもたせ、主体的に関わらせる中で、科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することが大切である。そのため、季節や地域の実態などに応じて素材としての生物を選び、生物や生物現象に対する興味・関心を高めさせるように配慮することが必要である。

【高等学校学習指導要領解説 理科編P113】

本教科で働かせる見方・考え方

理科における「見方」については、理科を構成する領域ごとの特徴を見いだすことが可能であり、「エネルギー」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉えることが、「粒子」を柱とする領域では、自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉えることが、「生命」を柱とする領域では、生命に関する自然の事物・現象を主として共通性・多様性の視点で捉えることが、「地球」を柱とする領域では、地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉えることが、それぞれの領域における特徴的な視点として整理することができる。理科における「考え方」については、探究の過程を通じた学習活動の中で、例えば比較したり、関係づけたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えることとして整理することができる。

【高等学校学習指導要領解説 理科編P12】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

SDGsの17のゴールのうち、高校生物との関連が強い目標として、目標13「気候変動に具体的な対策を」、目標14「海の豊かさを守ろう」、目標15「陸の豊かさも守ろう」が挙げられる。生徒が持続可能な社会の創り手へと成長するための手助けとして、高校生物の「生物の多様性と生態系」において、高校生が暮らしている地域の生物多様性を保全することの重要性について意識を高める授業の実

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>特性や学習進度に応じた柔軟な指導方法の工夫及び支援が必要な生徒への効果的な指導を行う。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>学習したことを基に生徒それぞれの興味関心に応じて、身の回りの生物や環境に焦点を当て学習を深め、広げていく。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>生物多様性と環境の保全について、互いの考えを共有し、よりよい考えを見いだす。</p>
---	---	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・観察、実験のデータ処理やグラフ作成（規則性や類似性を見いだす）。
- ・センサを用いた計測（計測しにくい量や変化を数値化して捉えやすくする）。
- ・観測や観察しにくい現象をシミュレーションして可視化する。
- ・観察、実験の過程での情報を検索する。
- ・学習を深める過程での情報共有、説明する際の手段。

視点4 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（単元）を構想するにあたってのポイント

本単元は「植生と遷移」、「植生の分布とバイオーム」、「生態系と生物の多様性」、「生態系のバランスと保全」の4つの小単元からなり、合計13時間で計画する。ICTを活用して世界と日本のバイオームの様子とその成立条件等を確認し、生態系と生物の多様性について学びを深めていく。単元末にSDGsに関連したパフォーマンス課題を設定し、各自で作成したスライドを使用して発表会を行う。この取組により生徒が地域の生物多様性を保全することの重要性について、意識を高めることを目指す。

パフォーマンス課題 あなたは小学校1年生の先生です。この地域の生物多様性を守ることが大切な理由について、児童が分かりやすいようスライドを作って説明してください。発表時間は5分です。

単元名：生物の多様性と生態系					
時	学習活動（全13時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1	植生とその成りたち ・植生とは何か、植生の特徴	主 興味喚起			ICT デジタル (シミュレーション)
2	植生の遷移 ・植生はどのように移り変わるのだろうか ・植生の再生		深 習得	対 比較	
3	植生とバイオーム ・バイオームとは何か、バイオームの成立条件	深 活用			ICT デジタル
4	世界のバイオーム ・森林、草原、荒原のバイオームとその特徴		深 習得		
5	日本のバイオーム ・日本のバイオームの水平分布、垂直分布				
6	生態系の成り立ち ・生態系とは何か ・生態系はどのような役割をもつのだろうか		対 比較		ICT デジタル (地球シミュレータ)
7	生態系における生物どうしのつながり ・生物のつながり、種多様性とは何か			対 情報収集	
8	生態系のバランス ・生態系のバランスが崩れるとどうなるのか ・安定した生態系とは	対 先哲参考		対 表現	
9	人間生活と生態系 ・外来生物、地球温暖化、種の絶滅		深 探究		
10	生態系の保全 ・持続可能な開発を目指して	主 自分事		対 協働解決	振り返り
11	パフォーマンス課題、スライド作成	主 粘り強く	深 まとめる		ICT デジタル
12	・なるべく平易で分かりやすい説明、表現と なるよう工夫する				
13	パフォーマンス課題、発表会 ・小学校1年生に向けた、「この地域の生物多様性を守ることが大切な理由について」というタイトルでスライドを用いて発表する。		深 省察	対 説明	ICT プレゼン

〈授業デザイン構想例 10〉



高等学校芸術科(音楽Ⅰ) 「変奏曲の創作に挑戦しよう(創作)」

教科としての特性

- ・〔共通事項〕と関わらせた音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。
- ・芸術科音楽の特質に応じた言語活動である、「音や音楽及び言葉によるコミュニケーション」で他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていく。

本教科で育成を目指す資質・能力

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【高等学校学習指導要領 芸術 音楽Ⅰ 目標 P141】

本教科で働かせる見方・考え方

音楽的な見方・考え方とは、感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること

【高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽)編 P21】

視点1 各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

【高等学校学習指導要領 芸術 音楽Ⅰ 目標(3) P141】

視点2 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化 生徒が自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考えて取り組めるような指導の工夫。(例:「Webソフトやアプリ上で創作するのではなく、楽器で創作したい!」→目的に応じて、手段は生徒が選択できるようにする)</p>	<p>学習の個性化 全ての生徒が目標を達成することを目指し、生徒の学習進度、学習到達度等に応じ、個々の表現したい内容に寄り添いながら個別にアドバイスする等の指導の工夫。(例:「もっと楽しい雰囲気にした!」→リズムを変え、跳躍進行にするなど、要素の働きを例示。先哲の残した作品などからアイデアを得る)</p>	<p>協働的な学び 多様な他者と創意工夫した内容について意見を交わし合い、多様な意見に触れることで創意工夫を深める。寛容な態度の育成。(例:他者と協働してまとまりのある変奏曲を創作する。自己の作品に対し他者から感想をもらうことで、表現を再調整する)</p>
---	--	---

視点3 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・創作アプリ…楽譜や楽器に苦手意識のある生徒にも直感的に音を選択し創作が可能。毎時のファイルを残し、創作経過や自己の変容も見られる。楽譜(PDF)や音源(mp3)への書き出し機能を用いて、提出・共有も可能。
- ・プロジェクタ、電子黒板
- ・プレゼンテーション用ソフト
- ・コラボレーションプラットフォーム…課題や作品の提出・目標や学習内容の提示・楽譜や音楽ファイルの提示・他者参照などに活用。

視点4


個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（題材）を構想するにあたってのポイント

〔共通事項〕に示す資質・能力と併せて、アに示す「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イに示す「知識」に関する資質・能力、ウに示す「技能」に関する資質・能力を育てていくことが指導のねらいとなる。生徒の興味・関心や学習状況等に応じて、指導内容の焦点を絞るなどして、各学校において創意工夫を生かした創作の指導を行うことが重要である。

【高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽）編 P40】

題材名：変奏曲の創作に挑戦しよう（創作）

時	学習活動（全8時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
1	<ul style="list-style-type: none"> 変奏曲について知る（説明・鑑賞）。 グループでどのような変奏曲を創作するか、イメージを固める。 創作アプリの操作に慣れる。 （変奏する原曲については、生徒の実態等に応じ選曲する）				 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・プレゼンテーション用ソフト ・創作アプリ
2	<ul style="list-style-type: none"> 変奏のヒントを確認する。 各自の担当部分を決める。 個人の担当部分について、構想を練る。 				  <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・プレゼンテーション用ソフト
3 4	<ul style="list-style-type: none"> 個人の担当部分について、構想を練る。 先哲の作品などからアイデアを得る。 創作アプリや楽器を用いて変奏する。 （音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもって変奏する）				 <ul style="list-style-type: none"> ・コラボレーションプラットフォーム上の音源・楽譜・創作アプリ
5	<ul style="list-style-type: none"> 作品をオンラインホワイトボードツールに保存・共有する。 自分の作品の工夫した点と音源をグループに発表する。 グループのメンバーからフィードバックをもらい、各自で再調整する。 				  <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインホワイトボードツール ・創作アプリの再生機能
6	<ul style="list-style-type: none"> 各自の作品を持ち寄って、グループでつなげていく。 完成作品をオンラインホワイトボードツールに貼り、グループでの発表準備をする。 				 <ul style="list-style-type: none"> ・創作アプリ ・オンラインホワイトボードツール
7	<ul style="list-style-type: none"> グループ作品を全体に発表する。 各グループの作品に感想を記入する。 クラスメイトからのフィードバックを基に、グループで振り返る。 				  <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト ・オンラインホワイトボードツール
8	<ul style="list-style-type: none"> 1時とは違う変奏曲を鑑賞し、曲想と音楽の構造との関わりを結びつける。 個人で振り返り、変奏することや変奏曲について、自分なりの楽しみ方を考える。 				  <ul style="list-style-type: none"> ・コラボレーションプラットフォーム

文部科学省 2019 高等学校学習指導要領 解説 芸術（音楽）編

文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校 芸術（音楽）】

〈授業デザイン構想例 11〉



高等学校芸術科(美術 I)

人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～

教科としての特性

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力の育成。 【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編P101】

本教科で育成を目指す資質・能力

美術に関する専門的な学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、美術や美術文化と創造的に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。
- (2) 美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。
- (3) 主体的に美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。 【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P423～425】

本教科で働かせる見方・考え方

造形的な見方・考え方とは、美術の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、感性や美意識、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすことが考えられる。 【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P102】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

持続可能な社会の担い手として、その多様性を原動力とし、質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していく。 【高等学校学習指導要領解説 芸術(美術)編 P1】

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>生徒の理解度や進捗に応じて、個別サポートを提供する。例えば、材料や配色に悩む生徒には具体的なアドバイスや視覚的手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設ける。表現の意図と材料や用具の特性を関連させた指導も行う。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>デジタルツールで生徒の進捗を把握し、必要に応じてフィードバックを行う。また、生徒のニーズやペースに合わせた具体的なアドバイスを提供。材料や配色に悩む生徒には視覚的な手本を提供し、主題や構想がまとまらない生徒には再考の機会を設け、サポートする。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>生徒同士が協力して学びを深めるために、グループワークやピアフィードバックを取り入れる。制作途中で相互鑑賞を行い、他者の作品を見たり意図を説明し合う場を設ける。これにより、生徒は他者の意見を参考にし、自分の作品を向上させる。</p>
--	---	---

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用











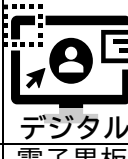




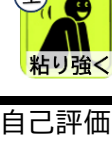





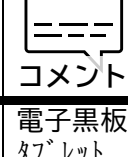




- 1 制作途中作品の相互鑑賞会
電子黒板やタブレットを用いて、生徒が制作途中の作品を見せ合いフィードバックを行う。
- 2 アイデア共有
電子黒板やタブレットを利用して、生徒のアイデアを全体で共有し、ディスカッションを行う。
- 3 作品の鑑賞と説明
タブレットを使用して、制作過程と完成作品をポートフォリオとして説明。
生徒が自分の作品をタブレット上で説明し、他の学生からのフィードバックを受ける

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想例

学習指導要領を基にして授業デザイン（単元）を構想するにあたってのポイント

単元を通して「生徒が何を身に付け、どのように学ぶのか」を明確にし、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが大切です。生徒が自分の視点やペースで学習を進めることができるように発想や構想をしたことを基に創造的に表す学習活動の展開を工夫します。生徒のニーズや特性に合わせて多様な学習の場を設定したり、ICTを活用したりする等、主題を追求し造形的な見方や感じ方を深める指導の工夫が大切です。

単元名：人物像を見つめて描く～自己や他者の内面に触れて～					
流れ	単元の流れ	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
導入 1次～2次	1. 作品の鑑賞（2時間） ●美術作品から、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深める。 ・人物像をテーマにした複数の美術作品をグループで鑑賞し、作品から感じ取ったことや主題と表現の関係、意図と工夫について批評する。 ●造形の要素の働きや、全体のイメージや作風などで捉えることについて理解する。 ・作品の主題と表現の関係や意図、工夫から、形や色彩、材料、光の性質、感情への効果、造形的特徴を基に全体のイメージや作風を理解する。	教科書 QR 	ワークシート 	鑑賞 	電子黒板 
		ワークシート 	ワークシート 	鑑賞 	タブレット
展開 ① 3次～6次	2. 発想や構想（4時間） ●主題を生成する。 ・表現したい対象を見つめ、その人物像について考察し、感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成する。 ●主題を基に構想を練る。 ・生成した主題を基に、表現形式の特性、表情やポーズ、配色や構図を考え、ワークシートやアイデアスケッチで創造的な表現を構想する。	ワークシート 	タブレット 	中間発表 	タブレット 
		ワークシート 	ワークシート 	中間鑑賞 	電子黒板
展開 ② 7次～14次	3. 制作（8時間） ●発想や構想をしたことを基に創造的に表す。 ・発想や構想に応じて材料や用具の特性を生かし、創意工夫して主題を創造的に表現する。また、制作途中に相互鑑賞を行い、他者の意見を参考にしながら作品を完成させる。	下絵  	彩色  ポータルフォ 	中間鑑賞  	電子黒板  
終末 15次～16次	4. 鑑賞（2時間） ●生徒作品や美術作品などを鑑賞し、見方や感じ方を深める。 ・お互いの完成した作品を鑑賞し、感じたことや考えたことを根拠に批評し合う。 ・第一次とは異なる作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫を考察して見方や感じ方を深める。	自己評価 		鑑賞 	電子黒板 タブレット 

※ピクトグラムの活用は、生徒や学校の実態に応じて取捨選択する。

文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校芸術(美術)】P52

〈授業デザイン構想例 12〉



高等学校 情報科 情報Ⅰ 単元名「情報デザインとコンテンツ制作」

教科（共通教科情報科）としての特性

情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け、実際に活用する力を養うとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養うことを目指す。【高等学校学習指導要領 第10節 情報 P190】

本教科で育成を目指す資質・能力

本教科の特性を踏まえ、資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。
- (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。
- (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

【高等学校学習指導要領 第10節 情報 P190】

本教科で働かせる見方・考え方

共通教科情報科では「情報に関する科学的な見方・考え方」を重視している。「情報に関する科学的な見方・考え方」については、「事象を情報とその結び付きとして捉え、情報技術の適切かつ効果的な活用（プログラミング、モデル化とシミュレーションを行ったり情報デザインを適用したりすること等）により、新たな情報に再構成すること」と整理されている。

【高等学校学習指導要領解説 情報編 P7】

視点1

各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

学習指導要領において学習の基盤の一つとされる情報活用能力は、現代の情報社会及び我が国が目指すべき未来社会の姿である「Society5.0」において必須となる素養であり、情報科ではこの情報活用能力を確実に身に付させることを目標としている。そのために、具体的な問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報と情報技術を活用するための知識と技能を身に付け、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための力を養い、情報社会に主体的に参画する態度を育成する。

視点2

授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>指導の個別化</p> <p>授業の課題において、教科書やインターネット検索、動画視聴など、学びやすい教材や方法を選んで取り組む。</p> <p>1人で学んだり、ペアやグループで学んだりするなど、学びやすい方法で学習する。</p>	<p>学習の個性化</p> <p>調べてまとめたり、作品を制作したりする学習において、自分の興味・関心を基にテーマを選択する。</p> <p>授業で学んだ知識を活用しながら、興味・関心に基づく探究的な学習を行う。</p>	<p>協働的な学び</p> <p>Web ページ制作、動画制作などの実習においてグループでの作品制作等を行う。</p> <p>プログラミングなどの授業で難易度の高い課題に取り組む際、ペアやグループで協働しながら学習を行う。</p>
--	---	--

視点3

個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 授業の流れや課題、評価等についてICTを活用して事前に提示して生徒と共有する。
- ・ デジタルノートアプリやプレゼンテーションソフト等を活用して授業用ノートやプリント教材をデジタル化する。
- ・ 用語等をインターネット検索で調べたり、授業に関連した動画を視聴したりする。
- ・ 調べたこと等をまとめて発表する場面でプレゼンテーションソフトを活用する。

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想








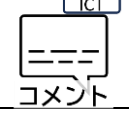











学習指導要領を基にして授業デザイン（単元、題材、教材）を構想するにあたってのポイント

情報科の見方・考え方の「情報技術の適切かつ効果的な活用」に関する「情報デザインの適用」をテーマとした全 13 時間の単元を構想した。単元前半では後半のコンテンツ制作の基礎となる「情報デザインの理解」「コンテンツ制作の基礎」に関する知識・技能の習得を目的とした授業を行う。その際、生徒が自分に合った学び方が選択できるよう、教科書やインターネット検索、動画等も活用しながら指導の個別化を意識した授業を行う。

単元後半では「オリジナルコンテンツ制作」を行う。その際、生徒が自分の興味・関心に基づいたテーマでオリジナルコンテンツ制作に取り組めるようにし、学習の個性化を意識した授業を行う。また、グループでの作品制作や相互評価等の協働的な学びを通して、深い学びにつなげるようにする。

以下の授業デザイン例では、本単元の第3時「ピクトグラムの作成」を取り上げている。

単元名：1 学年「情報デザインとコンテンツ制作」 13 時間扱い

流れ	本時の流れ（第3時／13時間）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
導入	1 学習課題と目標を確認する。 (1)学習用端末にログインし、本時の目標及び流れ、学習課題等を確認する。				
	(2)ピクトグラムの特徴や役割についての説明を聞き、文字だけの場合や図で示した場合の例などから考える。				
展開	2 ピクトグラムの案を考える。 (1)情報デザインを意識し、教科書やインターネット等を参考にピクトグラムの案を考える。				
	(2)隣同士や友人同士で話し合い、お互いの考えを参考にしながら作成するピクトグラムの案を決定する。				
	3 ピクトグラムを作成する。 (1)決定した案を基に PowerPoint を使ってピクトグラムを作成する。				
	(2)ピクトグラムの作成の意図などをピクトグラム作品と同じファイルと一緒にまとめて、Teams に保存する。				
	(3)提出されたピクトグラムについて、Forms を活用してクラス全体で相互評価を行う。				
	(4)ピクトグラムの相互評価を各自で確認して、相互評価を基に作品の改善を行い、再提出する。				
まとめ	4 本時のまとめと振り返りをする。 (1)ピクトグラムを作成することで分かった事をまとめる。				
	(2)本時の学習を各自で振り返り、次時につなげる。				

〈授業デザイン構想例 13〉

高等学校 工業科 実習 溶接



教科としての特性

職業に関する各教科においては、専門的な知識・技術の定着を図るとともに、多様な課題に対応できる課題解決能力を育成することが重要であり、地域や産業界との連携の下、産業現場等における長期間の実習等の実践的な学習活動をより一層充実させていくことが求められている。

【高等学校学習指導要領解説 工業編 P 6】

本教科で育成を目指す資質・能力

工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 工業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 工業に関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【高等学校学習指導要領 P 240】

本教科で働かせる見方・考え方

ものづくりを、工業生産、生産工程の情報化、持続可能な社会の構築などに着目して捉え、新たな時代を切り拓く安全で安心な付加価値の高い創造的な製品や構造物などと関連付けることを意味している。

【高等学校学習指導要領解説工業編 P 13】

視点1 各教科等と「持続可能な社会(の創り手)」との関連

単に生産性や効率のみを高めることにとどまらず、製品などが社会に及ぼす影響に責任をもち、ものづくりを通じて、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を養う。

【高等学校学習指導要領解説工業編 P 14】

視点2 授業における個別最適な学びと協働的な学びを一体的に捉えた学習活動

<p>実践的・体験的学習活動中に行うものづくりに関しては、実技動画による解説・実演・図解等を生徒の実情を踏まえてバランスよく活用し、指導を行う。</p>	<p>生徒個々の興味・関心、進路希望等に応じた実習内容の重点化やペア活動での役割分担を工夫し生徒が自分に合ったペースで学べる環境をつくる。</p>	<p>ペアでの課題作品製作をとおして相手の考えや取り組みを自分と比較することができる。また、実習記録をクラス全体に共有することで他のペアの考えや振り返りの共有を行う。</p>
--	---	---

視点3 個別最適な学びと協働的な学びの学習活動に応じたICTの活用

- ・ 動画、写真を含む実習記録簿を制作し共有（デジタルノート）
- ・ 実技動画の活用による技術力向上

視点4

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に位置付けた授業デザインの構想

学習指導要領を基にした授業デザインを構想するにあたってのポイント（単元）

単元「溶接」は指導項目の要素実習の内容にあたり、ここでは科目の目標を目指し、要素的な内容について実践的・体験的な学習活動を行う。内容を取り扱う際には、生徒の興味・関心、進路希望等に応じた実習内容の重点化や協働的な学習活動、ICTの活用を取り入れることで、個別最適な学びや協働的な学びの実現を図る。また、指導に当たっては、いわゆる座学との関連を図り学習の効果を高めるようにする。さらに、安全衛生、技術者として求められる倫理、環境及びエネルギーへの配慮などについても実習作業の適時・適切な機会に具体的に指導し、技術者としての使命や責任の自覚を総合的に理解できるよう工夫して指導する必要がある。

単元名：「溶接」		6時間×6週 全36時間			
流れ	単元の流れ（2/6週）	指導の個別化	学習の個性化	協働的な学び	ICTの活用
導入	1 前時の復習 (1) 前時までの学習状況を実習記録簿で確認する。 ・課題の製作状況 ・安全衛生等 (2) 単元計画を確認する。 (3) 本時の目標と評価規準を確認する。				
展開①	2 アーク溶接の基本練習 金属の性質（可融性）やアーク溶接機の安全な使用法等について実習作業の中で学習する。溶接法の習得に関しては、実演やICT教材を活用する。 (1) 平板の溶接 ・突合せ溶接 ・すみ肉溶接 (2) パイプ溶接				
展開②	3 アーク溶接の応用練習 ～ペアによる課題作品製作（ベンチ）～ 金属の性質（被削性・展延性）や各種工作機械の安全な取り扱いについて、実習作業の中で学習する。 (1) 材料の切断 ・丸パイプ切断線のけがき ・高速カッターによる切断 (2) パイプの曲げ加工 ・曲げ位置の印線けがき ・パイプベンダーによる曲げ加工 (3) 片付け				
まとめ	4 ペアでのまとめをし、振り返る。 (1) ペアで今日の実習作業を実習記録簿にまとめる。 (2) 本時の学習をクラスで共有する。 (3) 次回の確認				

IV まとめ

本研究は、本総合教育センターの統一テーマ「令和の日本型学校教育の実現を目指した取組」を基に、「『持続可能な社会の創り手』としての意識を高揚する教育の充実」をプロジェクト研究テーマとして、今年度から新たに取り組んだ研究である。初年度である今年度は、1年次研究として理論研究を中心に行い、「持続可能な社会の創り手」としての資質・能力の育成を意識した授業をデザインしてきた。成果と課題は以下のとおりである。

1 成果

- (1) 「持続可能な社会の創り手」としての意識を高揚する教育の充実を念頭に、各教科における資質・能力の育成を意識した授業デザインを校種別に構想することができた。
- (2) 各教科における学習活動の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に位置付けて取り組むことで、子供がどのような姿になるのかをイメージして全体で再確認しながら、授業デザインを構想することができた。
- (3) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」に取り組むに当たり、どの場面でICTを活用することがより効果的であるかを想定しながら、具体的に授業デザインを構想することができた。
- (4) 各班をまたいだプロジェクト研究委員の構成によって理論構築に努めたことで、お互いの校種や教科に対する理解を深めることができた。また、所員学習会により、持続可能な社会の実現に向けた教育への理解を深めることができた。

2 課題

- (1) 令和6年度に構築した理論を基にしなが、各教科における授業デザインと、「持続可能な社会の創り手」を育成するための実際の取組（授業）のつながりを深めていく。
- (2) 本研究で目指す子供像に、実際に迫ることができる授業デザインであったかを検証しながら、常に授業改善の視点をもってブラッシュアップしていく必要がある。

V おわりに

今年度は、本総合教育センターにおける「調査研究統一テーマ」と「プロジェクト研究テーマ」が共に刷新され、新たな研究のスタートとなる年であった。新しい研究への取組であったとは言え、毎回の研究委員会において、具体的に先行きを見通せず、手探り感があったことは否めない。そのため、プロジェクト研究委員会の担当として、全委員の思考を統一しながら、同方向へ進むことが難しく感じた。研究の担当者として研究を進めるに当たって、自らの知見をもっと広げながら取り組んでいく必要があったと感じる。また、それと同時にプロジェクト研究委員に対しても、具体的なビジョンを提示しながら、各々の研究に取り組みさせていく必要があったと感じる。そのような状況において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の研究について先進的に取り組んでいる東京都多摩教育事務所及び管内小中学校を視察訪問させてもらったことは、今年度のプロジェクト研究における研究の方向性や具体的な授業デザインのイメージをもつことにつながり、今回の研究に大変参考となった。この場を借りて、お礼を申し上げたい。

今後の実践研究の進め方としては、1年次研究では計13の授業デザイン構想例を提案したが、全体的に見ると各校種・教科の一部を紹介するにとどまっているため、今後も継続して授業デザイン構想例を充実させて、具体的な実践例として紹介していく必要がある。実践研究のまとめ方としては、児童生徒の変容や成長、手立てや取組、成果をリーフレット等の成果物としてまとめ、各種諸調査（全国学力学習状況調査、県学力到達度調査、学校評価等）の結果や振り返り記述、発言や行動観察等、児童生徒の変容を基にして、研究をまとめていくことを想定している。今回の本総合教育センターの研究が、今後の沖縄県の教育の一助となることを期待する。

〈主な参考文献〉

- 文部科学省 2022 生徒指導提要
- 文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 芸術（音楽）
- 文部科学省 2021 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 芸術（美術）
- 文部科学省 2020 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 美術
- 文部科学省 2019 『特別支援学校高等部学習指導要領』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 総則編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 国語編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 公民編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 数学編 理数編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 理科編 理数編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 芸術（音楽）編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 芸術（美術）編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 情報編』
- 文部科学省 2019 『高等学校学習指導要領 解説 工業編』
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領』
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領 解説 総則編』
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領 解説 国語編』
- 文部科学省 2018 『小学校学習指導要領 解説 算数編』
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領』
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領 解説 総則編』
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領 解説 美術編』
- 文部科学省 2018 『中学校学習指導要領 解説 道徳編』
- 文部科学省 2018 『特別支援学校幼稚部教育要領』
- 文部科学省 2018 『特別支援学校小・中学部学習指導要領』
- 沖縄県教育委員会 2024 [総括期版] 推進期間：令和2年度～令和6年度
『沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクト ～学びの質を高める授業改善・学校改善～』
- 沖縄県教育委員会 2022 『「問い」が生まれる授業サポートガイド』
- 沖縄県教育委員会 2022 「問い」が生まれる授業サポートガイド 補完版『授業改善ツール』
- 東京都多摩教育事務所
2022 『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ～ICTを活用した新たな学習活動を通して～』
2020 『これからの時代に求められる学校教育の創造 —「持続可能な社会の創り手に必要な資質・能力」の育成を目指して—』
- 浅見哲也 安井政樹 2023 『道徳授業の個別最適な学びと協働的な学び』 明治図書
- 工藤勇一 2018 『学校の「当たり前」をやめた。』 時事通信社
- 阿部利彦 赤坂真二 川上康則 松久眞実
2019 『人的環境のユニバーサルデザイン 子どもたちが安心できる学級づくり』 東洋館出版社
- 田沼茂紀 2017 『道徳科授業の作り方パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価』 東洋館出版
- 佐藤慎二 2015 『実践 通常学級ユニバーサルデザインⅡ』 東洋館出版社

〈参考 WEB サイト〉

- 文部科学省 中央教育審議会答申（令和 3 年 1 月）（最終閲覧 2024 年 1 月）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm
- 文部科学省 中央教育審議会答申（令和 4 年 12 月）（最終閲覧 2024 年 1 月）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00004.htm
- 文部科学省/mextchannel（最終閲覧 2024 年 1 月）
 【特別支援教育編】 1 人 1 台端末の効果的な活用～個別最適な学びを支える～
<https://www.youtube.com/watch?v=vbFumkoU3Jw&list=PLRL5uc3K15deShP2c9UPGK16F3GCAAPCZ>
- 【小学校編】 1 人 1 台端末で学校が変わる！ <https://www.youtube.com/watch?v=sXsqAIUEpTU>
- 【中学校編】 1 人 1 台端末で学校が変わる！ <https://www.youtube.com/watch?v=Tb7ioQRr53Q>
- 【高等学校編】 1 人 1 台端末で学校が変わる！ <https://www.youtube.com/watch?v=ClN7FgEfOOE>
- 内閣府 科学技術政策 Society5.0 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
- N I E R 国立教育政策研究所 <https://www.nier.go.jp/>
- N I T S 独立行政法人教職員支援機構 <https://www.nits.go.jp/>（最終閲覧 2024 年 1 月）
- N I T S 基礎的研修シリーズNo.17 学力向上の取組（独立行政法人教職員支援機構 新名主洋一）
<https://www.youtube.com/watch?v=eBUAHGjLwgE>
- N I T S 実践力向上シリーズNo.10 1 人 1 台端末の活用場面について（つくば市教育委員会 中村めぐみ）
<https://www.youtube.com/watch?v=q8zIGu67MTI>
- N I T S 校内研シリーズNo.94 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中央教育審議会 荒瀬克己）
<https://www.youtube.com/watch?v=c1Hunt8nqeI&t=294s>
- N I T S 「『令和の日本型学校教育』の構築」（答申）と新学習指導要領（千葉大学 天竺茂）
<https://www.youtube.com/watch?v=2PuWnKx1HZI&t=1s>
- N I T S 独立行政法人教職員支援機構 ピクトグラム一覧（最終閲覧 2024 年 1 月）
<https://www.nits.go.jp/service/activelearning/achievement/jirei/pictogram.html>
- 【学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料（令和 3 年 3 月版）】
https://www.mext.go.jp/content/20210428-mxt_kyoiku01-00014639_13.pdf
- 【[1]令和 3 年答申 p.17, 教育課程部会における審議のまとめ】
https://www.mext.go.jp/content/20210312-mxt_syoto02-000012321_2.pdf